

勝田政治教授の定年退職にあたって

考古・日本史学コース 主任 眞保 昌弘

2023（令和5）年3月、本学文学部史学地理学科考古・日本史学コース教授勝田政治先生が退職されます。ますますご健康で、研究や教育に誠心誠意取り組まれておられますが、大学の規定により去らなければならぬことになりました。本号は、勝田先生のご退職を記念した特集号であり、コース主任から一言ごあいさつを述べさせていただきます。

勝田先生は、1952年に新潟県に生まれ、新潟高等学校から早稲田大学第一文学部日本史学科に入学、その後同大学院修士課程、そして博士課程に進まれ、この間一貫して「日本近代史（とくに明治維新史）」の研究を進め、「内務省と明治国家形成」と題した論文により博士（文学）の学位を取得されました。

その専門性によって1986（昭和61）年4月からは国士舘大学、1990（平成2）年からは早稲田大学、1994（平成6）年からは東京家政大学で非常勤講師をつとめ、1995（平成7）年4月からは国士舘大学教養部に助教として赴任されました。学内の機構改革に伴い翌年に文学部に配属、2001（平成13）年4月から国史学専攻教授に就任されました。2004（平成16）年4月からは考古日本史学専攻、2017（平成29）年4月には考古・日本史学コースへと組織名称は変わりましたが、都合27年間にわたり、学内での大きな改革に立ち会い、その最前線でご活躍されてきました。

業績としては、著作目録にもありますように明治維新期の研究がご専門で数多くの著書と論文があります。なかでも『政事家』大久保利通』2003講談社・『大久保利通と東アジア―国家構想と外交戦略―』2016吉川弘文館・『明治国家と万国対峙』2017KADOKAWAなど、近代日本の国家を構想した大久保利通の研究を専門とし、学会に多大な貢献を果たされており。学会の運営、若手研究者の育成にも尽力し、明治維新史学会の創立期から参加し、理事として事務局長を担当され、2012（平成24）年6月から2018（平成30）年5月までの6年間会長を歴任しています。

また、NHKをはじめ多くの歴史番組への出演や各地での講演会にも招聘され、終始一貫その論理的かつリズムカルな語り口は、まさに勝田節として多くの支持を得ています。

学内にあつては、2010（平成22）年4月から2014（平成26）年3月まで4年間、大学院人文科学研究学科長として本学における大学院の基盤作りに尽力され、2013（平成25）年12月から2018（平成30）年3月までの4年4か月、本専攻（コース）主任をお引き受けいただき、今日の基盤を築いていただきました。

教育面では、特にゼミでの教育に力を入れられ、厳しい指導の合間に年2回ゼミ生と呑み会を行うなどはまともにも良く、常に人気があり最大時23人、通常時15人を下回ったことがありませんでした。本当に多くの学生をお導きいただきました。現在、コロナ禍も加わってデジタル・オンライン・マニュアルが教育界に幅を利かせる中、昔ながらの良きアナログ、対面、属人を基盤として融合された先生でした。このように大学教員として典型的な方は、現在では一握りであり、惜しまれてなりません。お時間があれば、毎月教授会後に先生主唱で開催されていた親睦会、代わって私が幹事となりますので、お付き合いいただきたく存じます。

最後になりますが、勝田先生の研究と教育にかかわる真摯な姿勢を本コース教員の伝統として受継いでいきます

ことを、ここにお約束いたします。いつまで見守っていただきたいと思います。

これからの先生のご健康を心からお祈りいたします。